

## 天草営農組合が飼料用米を畜産農家へ提供

天草市下浦町の天草営農組合が、8日（木）から下浦町で飼料用米を収穫し、有明町の畜産農家福永修一さん（66）へ供給を始めました。同組合は、3年前から3.5haの飼料用米「モグモグあおば」をソフトグレインサイレージ製法で調製して全量福永さんへ納めています。

繁殖牛43頭を営んでいる福永さんが、配合飼料の高騰を背景に低コストの代替飼料として同組合に飼料用米の生産と調製を依頼したのがきっかけ。稲ソフトグレインサイレージ（稲SGS）製法は、稲の籾だけ収穫・粉碎・密封してサイレージに調製します。稲ホールクロップサイレージ（稲WCS）に比べ、牧草収穫用の機械を必要とせず、飼料用粉碎機とフレコンバックで、耕種農家でも容易に生産調製ができ、新規投資を抑えることができるのがメリット。同組合の吉田勉組合長は、「コンバインで収穫でき、籾米を乾燥・調製する必要もなく、経費・手間も省ける。経営所得安定対策交付金の対象となり収益も確保できる。今後畜産農家の要望があれば、栽培面積を増やしていきたい。」と期待を寄せています。

自身でも飼料用米を生産調製し、同組合からの供給も合わせて配合飼料の8割を代替飼料としてこれに替える福永さんは、「糖蜜、乳酸菌を添加した飼料用米はいい匂いがするので、子牛が寄ってくる。飼料にかかる費用も削減でき、種付けの実績も順調だ。」と話されました。

この取り組みは、県下でもまだ取り組み事例が少なく、同日は熊本県による視察も行われました。